

山行報告書

作成: 2006年8月1日

報告書作成 愛知岳連 岡崎山岳会 金原和子

山名[山域]	石狩岳・ニベソツ山	目的[方法]	花とトムラウシの展望		
期 間	2006年7月15日(土) ~ 18日(火)	形 態	ピストン	参加人数	2名

行動記録:

7・15(土) 名古屋中部国際空港 15:25 千歳空港 17:05・レンタカー18:00 = (買い物) = 千歳IC=旭川北IC = 十勝三股バス停 22:35(泊) 2名

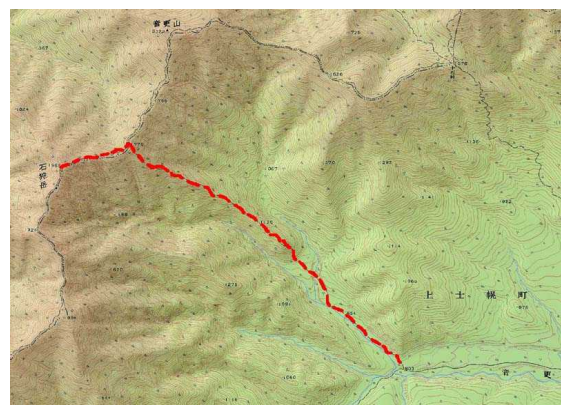
7:16(日) 十勝三股 4:00・5:00 = シュナイダーコース登山口 5:25・5:30 シュナイダー分岐 8:40 石狩岳 9:30・10:10 シュナイダー分岐 10:35 音更山 11:30・45 シュナイダー分岐 12:30・40 シュナイダー登山口 14:15 = 岩間温泉 15:00・16:30 = 十六の沢登山口(泊)

:17(月) 十六の沢登山口 5:00 天狗のコル 6:45 前天狗 8:10 ニベソツ 10:00・10:55 前天狗 12:25 十六の沢登山口 14:40

概念図:

ニベソツ

石狩岳



日誌:

7・15(土)

夕闇の迫る中、ナビの指示に従い、十勝三股めざし北回りルートで、出発。ほぼ、予定どおりに到着。

7・16(日)

明るくなったバス停周辺は、ルピナスの大群生地、紫・ピンクと白樺の木が、美しい。写真撮影に手間どり5時出発。林道に入ってすぐの所で、営林署の入山届けを、2日分記入してシュナイダー登山口に向かう。すでに10台の車。簡易トイレあり。時折青空が、のぞき 石狩岳方面の山が、雲間からのぞく。1時間ほどでシュナイダーコースの取り付けにかかる。いよいよ急登のはじまりであるが、さほどの事もなく石狩の肩にとびでる。石狩岳が、眼前に迫り、又大雪方面は、トムラウシこそ雲にかくれてはいるものの、残雪の美しい山々が、ひろがり、足元には見ごろのコマクサが。山頂では、10人ほどの人たちが、展望を楽しんでいた。予定より早く石狩の肩まで、戻ったので向かいの音更山まで、ピストンする。途中の岩場では、ナキウサギの音が、ずっと響いていた。下山後林道をさらに奥へ2Kほど進み、徒歩200M 秘湯岩間温泉にて、露天風呂を楽しむ。

7・17(月)

本日は、上空に寒気が入り不安定な天気。雷注意とのこと。早朝の登山者は、道外者 5組10人。前半は見通しのきかない樹林地帯。一箇所岩場を乗り越えると天狗のコルのテン場に着く。学生が、3張テントを張り朝食のかたづけと下山準備をしていた。チングルマ・エゾコザクラのお花畑が、続く。程なく天狗の岩場にはいるとナキウサギの音が、ひっきりなしに響きわたる。メアカンキンバイが、一株のみ目に付く。ナキウサギも時々姿をみせ、エゾシマリスも足元近くに。ウメバチソウ・ウサギギク・ミヤマキンバイ・エゾツツジ・イワウメ・イワヒゲ・コケモモ・ツガザクラが、とぎれることなく お花畑の中を進むが、写真撮影に時間を忘れる。山頂直下は、垂直に切れ落ちた東壁側の花と登山道側の花は、まるで違い人をよせつけられない秘密の花園の様子である。エゾリリソウ・ミヤマオダマキ・チシマキンレイカ・ホソバワイベンケイ・ミヤマアズマギク・タカネシオガマ・イワブクロ・チシマゲンゲ・フタマタタンポポ・エゾノハクサンイチゲ・ユキバトウヒレン・トカチフクロ・皆下山したあとをのんびり花探訪しながら下る。しかし天気は、ガスが広がりつつある。1745M 付近で、遭難碑プレートがあり、ひっそりとコマクサが、咲いていた。このあたりから、急激に天気が、悪くなり前天狗で、遠くで、雷鳴が響く中カップを上下着たとたんドシャ降り状態になり、少々不安になる。1600M 付近で、なんとアラレが、降ったらしく登山道に延々と残っていた。小天狗の岩場を乗り越えれば樹林帯の中。ひたすら沢となった登山道を下り、濁って水量の増した杉沢にかかった丸太橋を渡ってゴール。一番最後の到着であったので、すでに一台の車もなかった。翌日も雨の予報なので、白雲山は、中止とし南回り、札幌に戻り予定より早い便で、帰宅した。